

JAPAN PLATFORM

SUMMARY REPORT : MYANMAR CYCLONE NARGIS PROGRAM

ジャパン・プラットフォーム
ミャンマー・サイクロン被災者支援報告書

NOVEMBER 2009



目次 Contents

目次	2
謝辞&支援概要	3
JPFの機能	4
これまでの活動実績	5
ミャンマー・サイクロン被災者支援の流れ	6
企業・団体との連携	8
具体的な連携事例	10
支援企業・団体からのメッセージ	11
ミャンマー・サイクロン被災者支援 支援者一覧	12
実施事業紹介	14
評価と提言	18
ミャンマー・サイクロン被災者支援 事業一覧	19
Functions of JPF and Activity Record	20
Flow for Myanmar Cyclone Nargis Program	21
Introduction to Projects Conducted	22
Myanmar Cyclone Nargis Program Project List	23

謝 辞

2008年5月2日から3日の未明にかけて、大型サイクロン「ナルギス」がミャンマーに上陸、死者84,537名、行方不明者53,836名、負傷者19,359名という未曾有の大災害が発生しました。特に南部のエヤワディ管区及びヤンゴン管区の被害が大きく、同区の人口735万人のうち240万人が被災したと伝えられています。

ジャパン・プラットフォーム（JPF）では、2008年5月6日に出勤を決定。政府支援金及び企業や個人の皆様から寄せられた寄付金により、発災直後の緊急支援物資配布や緊急医療支援をはじめ、仮設住宅の建設、子どもを含めた社会的弱者のケア、学校など公共施設の修復、生計支援、防災技術支援など、11団体による32の支援事業を実施してまいりました。復旧段階に当たる現在も、現地では事業を継続しています。皆様からのご支援により、喫緊の必要性を満たすものから将来性を見据えた中長期的な事業まで、事業実施団体の得意分野を活かした支援が可能となりました。

ご支援をお寄せいただいた皆様に、被災された方々からの感謝をお伝えするとともに、現地で活動を実施いたしました団体に代わり、衷心より御礼申し上げます。

活動の詳細につきましては、当報告書にてご報告させていただきます。忌憚のないご意見、ご指導を賜われましたら幸いと存じます。今後ともご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2009年11月吉日

特定非営利活動法人(認定NPO法人)

ジャパン・プラットフォーム

代表理事 長 有紀枝



支援概要

PROGRAM SUMMARY

事業期間	:	2008年5月～2010年5月（予定）
資金規模	:	9.7億円余
総事業数	:	32事業（モニタリング事業含む）
活動団体数	:	11団体
支援者数	:	651件（企業・団体・個人）
Term	:	May 2008 ~ May 2010 (to be completed)
Fund	:	¥970mil
Number of Projects	:	32 (including Monitoring)
Number of NGOs	:	11
Number of Cooperators	:	651 (Corporations, Organizations, Individuals)

ジャパン・プラットフォーム(JPF)とは、NGO、経済界、政府が協働して、市民社会と共に日本発の国際人道支援に取り組むための団体です。



JPF は日本国内においても、広報活動をはじめとして国際人道支援を活性化するためのさまざまな活動に取り組んでいます。

広報活動1

一般の人々にJPFの活動を知っていただくために国内での広報活動に力を入れている(写真はグローバルフェスタ JAPAN2009での一コマ)



広報活動2

企業と連携した広報活動も積極的に展開している(写真はソニービルの支援により実現したJPF広報活動の様子)



研究会の開催

大阪大学「共生人道支援」研究班と連携し「心理社会的ケア」研究会を開催



企業との連携

野村グループの社内チャリティコンサートにて、寄付金のご支援を頂戴



2000年の発足以降、30の国や地域で、 総額104億円による456の支援事業を実施してきました。



展開中の事業

●フィリピン水害被災者支援	2009年10月～実施中	8事業	0.34億円
●スマトラ島西部パダン沖地震被災者支援	2009年10月～実施中	13事業	0.98億円
●スリランカ北部人道支援	2009年2月～実施中	12事業	2.1億円
●中国四川地震被災者支援	2008年5月～実施中	17事業	1.59億円
●ミャンマー・サイクロン被災者支援	2008年5月～実施中	32事業	9.08億円
●平和構築支援パイロット事業	2007年10月～実施中	7事業	0.28億円
●イラク避難民人道支援 (ヨルダン)	2007年7月～実施中	20事業	3.61億円
●スーダン南部人道支援	2006年5月～実施中	26事業	12.13億円
●ジャワ島地震被災者支援	2006年5月～実施中	26事業	2.41億円
●イラク人道支援	2002年11月～実施中	27事業	26.57億円

終了済みの事業

●パキスタン北西部人道支援	2009年6月～2009年10月	3事業	0.66億円
●ジンバブエ・コレラ被災者支援	2009年3月～2009年8月	2事業	0.24億円
●パレスチナ自治区ガザ人道支援	2009年2月～2009年5月	6事業	1.37億円
●パキスタン南西部地震被災者支援	2008年11月～2009年4月	2事業	0.49億円
●インド水害被災者支援事業	2008年10月～2009年3月	2事業	0.01億円
●バングラデシュ・サイクロン「シドル」被災者支援	2007年11月～2008年5月	10事業	0.72億円
●南アジア水害被災者支援	2007年9月～2008年3月	5事業	0.91億円
●南部アフリカ干ばつ被災者支援	2007年9月～2008年10月	5事業	1.07億円
●スリランカ人道支援	2007年9月～2008年11月	5事業	0.83億円
●スマトラ島南西沖地震被災者支援	2007年9月～2008年3月	7事業	0.75億円
●ペルー地震被災者支援	2007年8月～2008年9月	8事業	0.94億円
●パキスタン水害被災者支援	2007年7月～2008年3月	10事業	1.54億円
●新潟県中越沖地震被災者支援	2007年7月～2007年12月	6事業	0.1億円
●イラク難民人道支援 (シリア)	2007年7月～2009年3月	2事業	0.02億円
●ソロモン諸島地震被災者支援	2007年4月～2007年6月	1事業	0.02億円
●レバノン人道支援	2006年9月～2007年5月	6事業	0.54億円
●東ティモール人道支援	2006年7月～2007年10月	6事業	0.72億円
●パキスタン地震被災者支援	2005年10月～2009年8月	49事業	8.39億円
●スーダン・ダルフール人道支援	2005年2月～2007年2月	7事業	3.13億円
●スマトラ島沖地震被災者支援	2004年12月～2006年2月	43事業	5.99億円
●リベリア人道支援	2004年2月～2006年5月	13事業	6.03億円
●イラン南東部地震被災者支援	2003年12月～2006年1月	22事業	2.96億円
●南部アフリカ緊急農業復興	2002年8月～2003年2月	5事業	1.44億円
●アフガニスタン人道支援	2001年9月～2004年8月	33事業	6.54億円
●モンゴル雪害支援	2001年1月～2001年2月	1事業	0.02億円
●インド西部地震被災者支援	2001年1月～2002年3月	9事業	0.16億円

TOTAL

総事業数：456事業

総額：約104億円

2009年11月現在

必要とされる支援を、
必要な時に、必要な人々へ届けました。

死者 : 84,537人
行方不明者 : 53,836人
負傷者 : 19,359人

出所: 「ナルギス被害合同調査報告書」(P.1) ミャンマー政府、
東南アジア諸国連合(ASEAN)、国際連合(2008年7月)

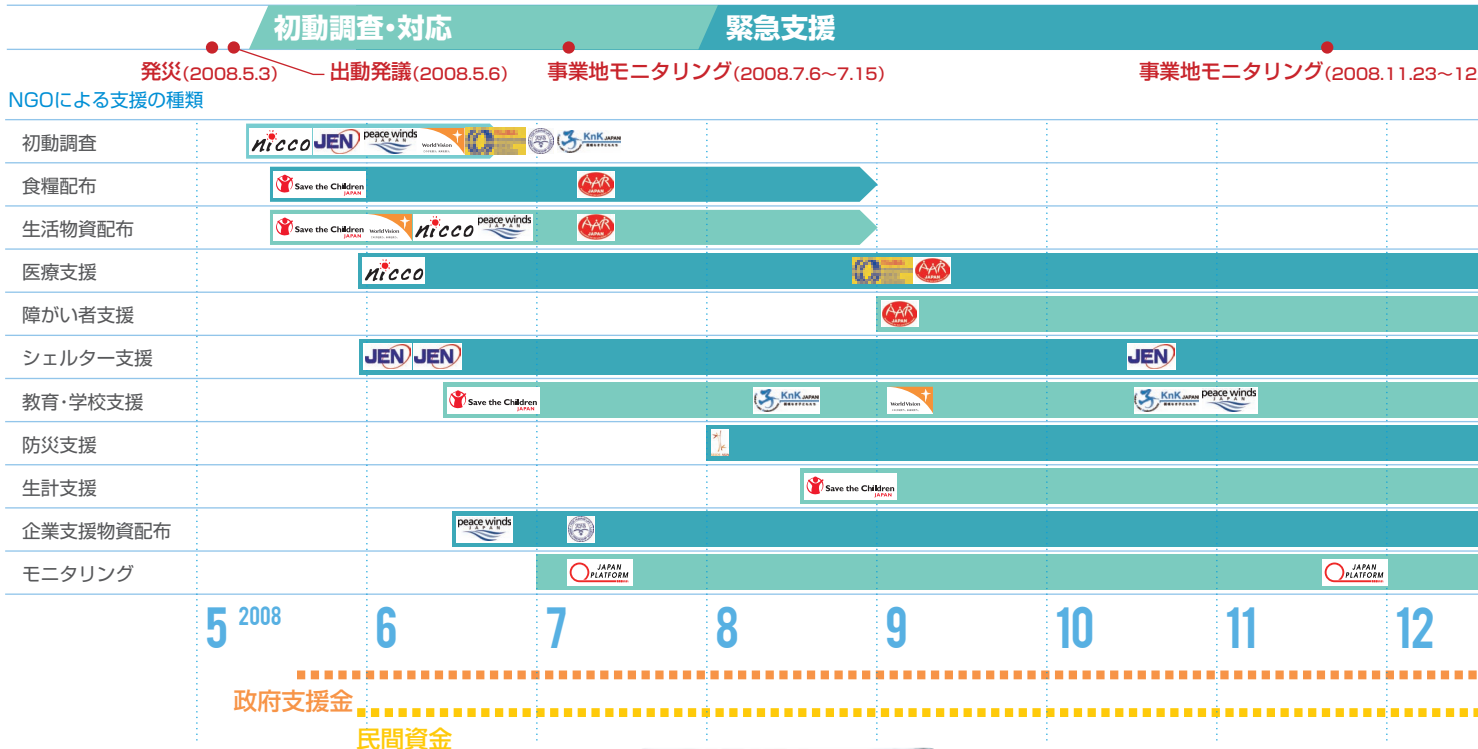
最大瞬間風速 : 72m/s
通過日 : 2008年5月2日~3日

出所: JICAプレスリリース(2008年6月27日)



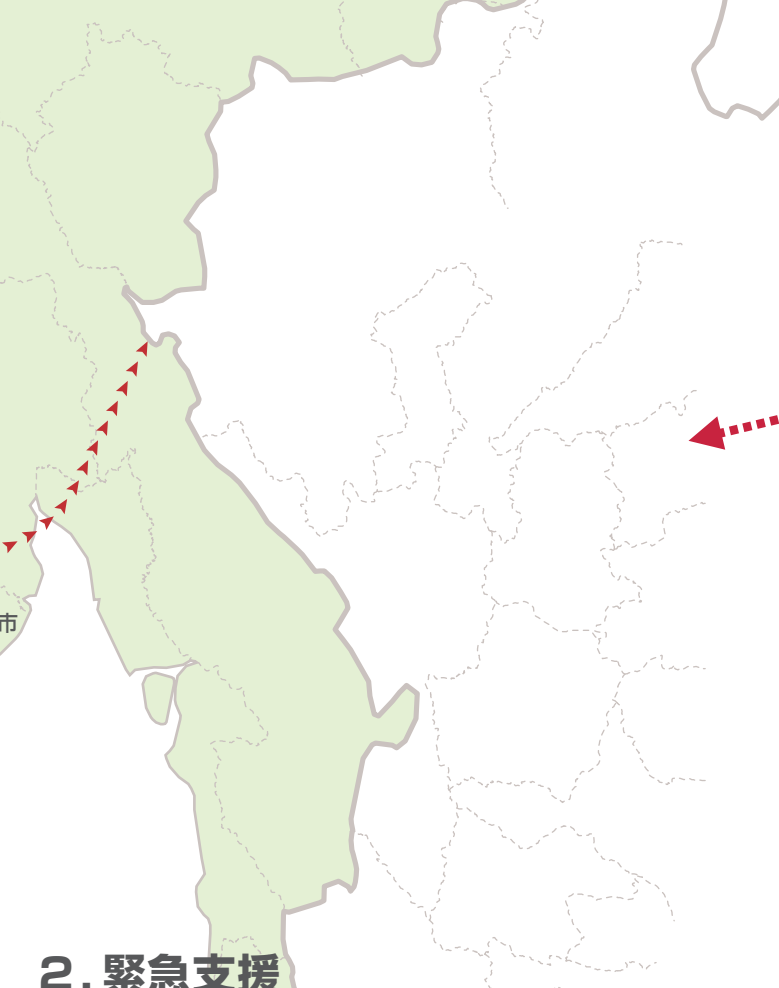
1. 初動調査・対応

2008年5月9日~
594,199,075円



初動調査・対応
「シェルターキット」で建てた
仮設住宅の前で笑顔を見せる
被災者
© JEN

※ JPF事業終了後も、自己資金や他助成金により現地での事業を継続予定。

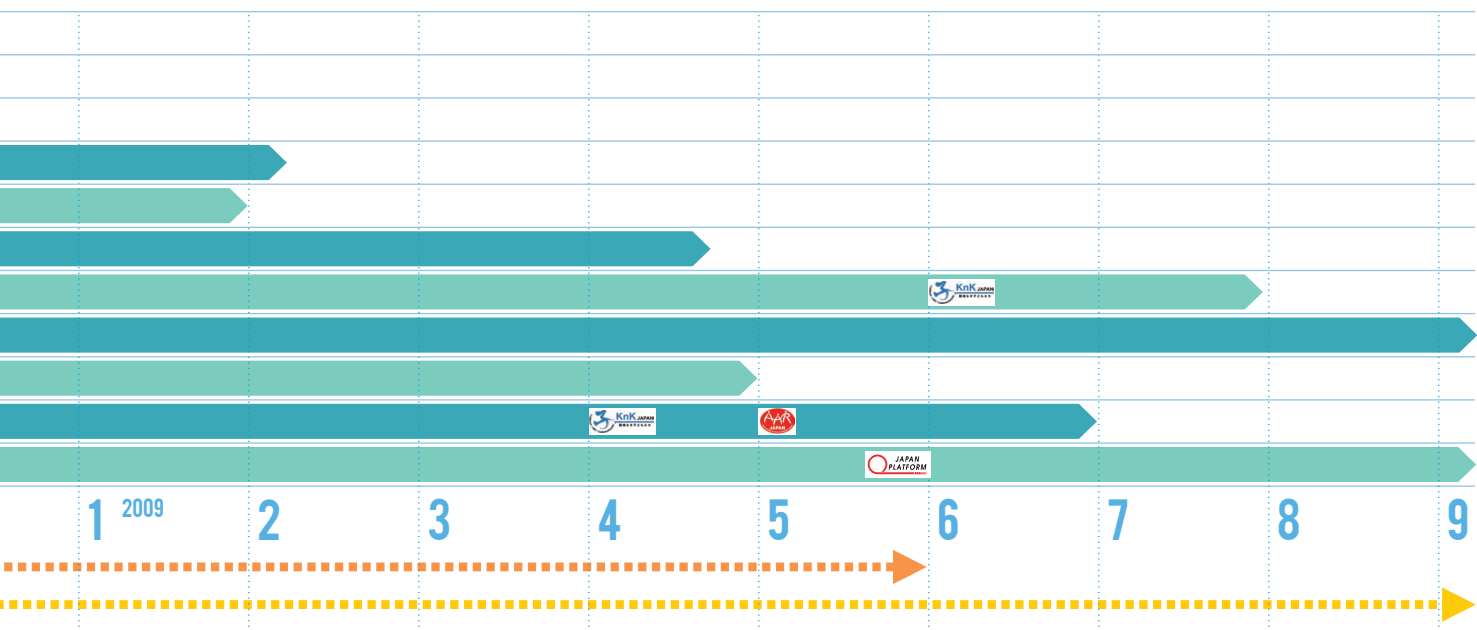


2. 緊急支援

2008年8月1日～
343,755,823円

3. 復旧支援

2009年6月1日～
27,605,747円

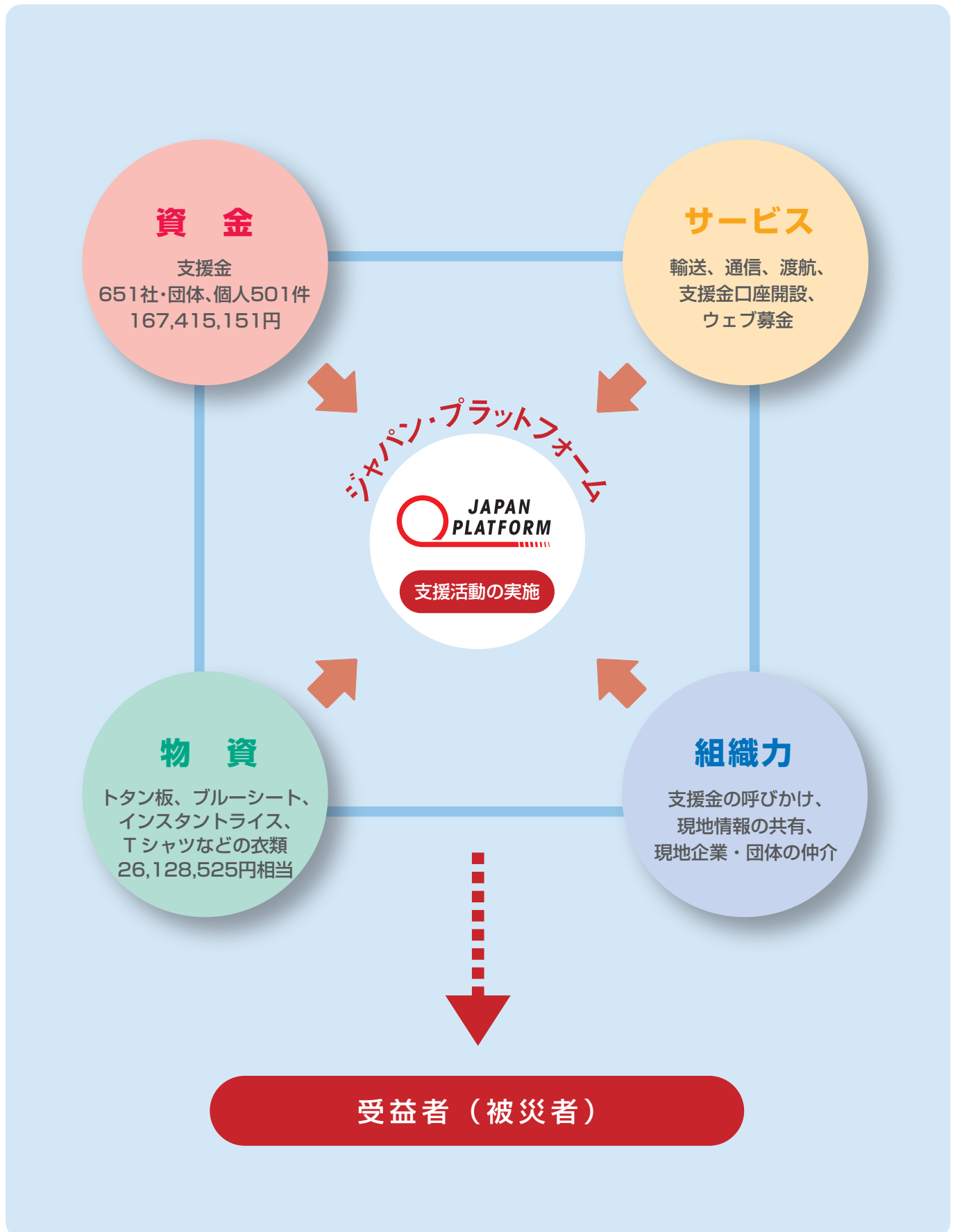


緊急支援
被災した漁民世帯の人々にボートの配布を行うSCJスタッフ
© SCJ



復旧支援
学校防災教育訓練事業に向けた調査のために、ミーティングする現地スタッフ
© SEEDS

企業・団体の持つ多様なリソースを活用した支援を実施しました。



企業・団体の義援金

テレビ朝日「ドラえもん募金」を通じた視聴者からの義援金の寄託

©JPF



渡航サポート

ANAグループの渡航サポートにより支援スタッフを迅速に被災地へ派遣

©全日本空輸株式会社

現地企業・団体の仲介

日本商工会議所、ヤンゴン日本人商工会、ミャンマー商工会議所連盟が連携してJPF参加団体と現地企業・団体を仲介

©JPF



物資支援と輸送支援

アシックスからの支援物資を日本郵船グループの海上輸送協力を得てJPF参加団体が配布

©AAR

初動調査・対応

緊急支援

復旧支援

初動調査・対応

- ・初動調査
- ・食糧配布
- ・生活物資配布
- ・医療支援
- ・シェルター支援
- ・教育・学校支援
- ・企業支援物資配布
- ・モニタリング

緊急支援

- ・食糧配布
- ・生活物資配布
- ・医療支援
- ・障がい者支援
- ・シェルター支援
- ・教育・学校支援
- ・防災支援
- ・生計支援
- ・企業支援物資配布
- ・モニタリング

復旧支援

- ・教育・学校支援
- ・防災支援
- ・企業支援物資配布
- ・モニタリング



ANA グループ 様

航空機による支援者及び救援物資の緊急輸送のご協力

ANA グループでは、ミャンマー・サイクロン「ナルギス」発生直後より、約 2 ヶ月間にわたり、航空機による支援者及び救援物資の緊急輸送協力の受付を行いました。また同時に、災害義援金として 300 万円を JPF に寄付いたしました。ミャンマーへの当社の定期就航路線はありませんが、最も近い就航地バンコク空港まで、支援者のべ 5 名様の渡航協力を行うことができました。

JPF からは、現地の被害状況、ニーズ、支援活動状況、他社支援状況など、活きた情報をタイムリーに得ることができ、大変役立っています。

航空機による輸送支援は、急を要する場合に最も適しており、他の交通機関に先駆けて被災地への支援物資輸送や医療従事者の運送を実施できます。

今後も JPF に集約される様々な情報をもとに、航空機での輸送協力はもちろんのこと、機用品である毛布などの提供、社員募金、お客様からの義援マイルの募集など、現地ニーズに合った活動で、少しでも多くの被災者に貢献して参りたいと考えております。



©全日本空輸株式会社

ヤンゴン日本人商工会議所 様

ミャンマーと日本の経済界を結んだ JPF 支援

ミャンマーがサイクロンに襲われた後、東京の日本商工会議所から電話がありました。—今度、JPF がミャンマーに行くので会ってほしい。その翌週、5 月 12 日（月）の朝にはもう、JPF 参加 3 団体（JEN、NICCO、PWJ）のスタッフがジェトロ・ヤンゴン（ヤンゴン日本人商工会議所・JCCY 事務局）の会議室を訪れました。

会議の席で「どのような援助が求められているのか」と問われた私は、とっさに、その前週 9 日（金）に訪れたミャンマー商工会議所連盟（UMFCCI）からの要望を伝えました。JCCY としては限られた援助しかできず、目の前で困っているカウンターパートの UMFCCI の要望にどう応えるか、正直、悩んでいたからです。すると、3 団体から「JPF も経団連をはじめ、経済団体・企業の支援を受けている。UMFCCI と会ってみたい」との声が上がり、私はすぐに電話をかけ、レターを書き、その夕方には両者の初会合が持たれました。

その後の現地政府との調整や援助のロジ面を支えた UMFCCI の

尽力には、並々ならないものがあったと聞いています。それは JPF 参加団体の活動や気持ちに応えてくれたからだと思います。JPF を通して、日緬経済界が近付いていくのを感じました。

小島 英太郎 様

ジェトロ・ヤンゴン所長
ヤンゴン日本人商工会議所(JCCY)専務理事



©JPF

広島県庁 様

JPF・自治体・企業・NGO による全国初の連携支援

広島県では、JPF と交わした国際貢献活動の促進などに関する協定に基づき、平成 20 年 5 月に発生したミャンマー・サイクロン被災地に対して、「広島発の海外被災地支援プログラム」を実施しました。具体的には、JPF、県、県内企業、NGO などが連携して、物資の提供、輸送、現地配布などを行いました。

支援物資としては、広島県からブルーシート 1,500 枚、株式会社サタケ様からインスタントライス 13,000 食の提供がありました。また、県内での物資輸送は社団法人広島県トラック協会様からの無償提供、広島空港からヤンゴンまでの航空輸送はバンコクエアウェイズ様からの無償提供により行いました。そして現地での配布は、JPF 参加団体として PWJ などの団体が、ミャンマー商工会議所連盟と連携して被災者に物資を届けました。

このような JPF、自治体、企業、NGO などの連携による地方発の支援プログラムは、今回が全国初の試みです。



©広島県庁



©JPF

パナソニックグループ 様



小川 理子様

パナソニック株式会社
コーポレートコミュニケーション本部
社会文化グループ
グループマネージャー

現場ニーズと企業リソースのマッチングに不可欠な JPF の機能

パナソニックグループでは、不幸にして世界各地で起こった大規模な自然災害や事故災害などに対し、被災した地域や政府、救援活動を行う NGO などに、緊急救援機材や製品、救援支援金を提供するとともに、社員への救援活動や寄付活動の呼びかけを行っています。

JPF へは、2002 年よりいろいろな形で支援させて頂いております。災害義援金をはじめ、テントのような支援物資、JPF 事務局運営のための映像機材、報告会会場などの提供、また、JPF の支援活動をまとめた映像制作への協力といった支援などを続けて参りました。

JPF は支援現場のニーズと企業リソースのマッチングという面でも欠くべからざる役割を果たされており、今後も災害発生時の緊急援助がより効率的かつ効果的に行われるよう、極めて重要なパイプ役としての調整機能を期待しています。

毎日新聞社会事業団 様



三浦 拓也様

毎日新聞東京社会事業団
常務理事

真の人道支援は民間の参加があってこそ

毎日新聞の各社会事業団（東京、大阪、西部）による JPF への支援は、2001 年 9 月のアフガニスタンの難民救済に始まり、イラク難民救援（2002 年 11 月）、イラン南東部地震（2003 年 12 月）、スマトラ島沖地震（2004 年 12 月）、パキスタン地震（2005 年 10 月）、ジャワ島地震（2006 年 5 月）、ペルー地震（2007 年 8 月）、バングラデシュ・サイクロン（2007 年 11 月）、そして昨年のミャンマー・サイクロン、中国四川地震（2008 年 5 月）の災害救援に至るまで、継続して行って参りました。

私どもは、政府だけではなく民間の参加もあってこそ、支援される人々の立場に立った真の人道支援が可能ではないかと考えております。JPF に支援を続けるのも、民間レベルで人道支援に取り組む NGO に期待し、これからも大きく活躍してほしいという願いによるものです。それは、毎日新聞社が基本理念で謳う「人間ひとりひとりの尊厳とふれあい」を重んじた支援活動だと思っております。

日本の NGO が活躍するプラットフォームとして、JPF がこれからもさらに研鑽を積まれることを期待しております。

日本労働組合総連合会 様

「連合・愛のキャンパ」で日本の NGO を支援

「連合・愛のキャンパ」活動は、連合発足（1989 年 11 月）以来、全構成組織の取り組みとして合意決定した運動です。

当初は、支援先として国連中心の援助活動に比重を置いていましたが、最近では紛争・内戦下の恵まれない子どもへの支援から、国内各地域での比較的小規模な助け合い運動や NPO による活動への支援にまで拡大してきました。また近年、国内外で増大している自然災害などに対する救援や特別キャンパの実施なども展開しております。

2008 年 5 月 15 日の連合中央執行委員会で、5 月 2 日から 3 日にかけてビルマ中・南部を直撃した大型サイクロンの被害に対して、ビルマ労働組合連盟（FTUB）ならびに現地 NGO とネットワークのある JPF など日本の NGO に、災害特別キャンパの支援を決定しました。

連合は、JPF などの NGO が行う人道支援事業に対して、重要な社会貢献の一環として、「連合・愛のキャンパ」の支援を継続的に取り組んでいきます。



メーデー中央大会に参加した JPF 事務局のスタッフ ©JPF

武山 信一様

日本労働組合総連合会
総合組織局 連帯活動局
局長

企業・団体・個人の皆様から、合計651件のご協力をいただきました。
皆様のご協力に、心より御礼申し上げます。

資金によるサポート

アイ・シグマ・キャピタル株式会社	住友商事株式会社
青森県立野辺地高等学校	住友生命保険相互会社支部支社有志
朝日生命保険相互会社	積水ハウス株式会社
株式会社旭建築設計事務所	全日本空輸株式会社
アサヒビール株式会社	全日本自動車産業労働組合連合会
ADEKA グループ	双日グループ
出光興産株式会社	大同生命社会貢献の会
伊藤忠商事株式会社	財団法人和証券福祉財団
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社	株式会社武富士
株式会社内田屋	ダンアンドブラッドストリートTSR株式会社
Hunion ボランティアクラブ	千葉海運産業株式会社
オール富士ゼロックス社員有志一同	帝人株式会社
大阪大学大学院ボランティア人間科学講座有志	テレビ朝日ドラえもん基金
岡部株式会社	株式会社東京環境測定センター
花王株式会社	株式会社東京新聞社
花王ハートポケット倶楽部	株式会社ドクターシーラボ
キリンホールディングス株式会社	トヨタ自動車株式会社（義援金と役員社員募金）
グッドイヤーウィングフット株式会社	豊田通商株式会社社員有志一同
株式会社クレイ	日産自動車株式会社
グンゼ株式会社	社団法人日本証券業協会
公明党	財団法人日本数学検定協会
コニカミノルタグループ	日本ペイント株式会社
資生堂グループ従業員一同	日本労働組合総連合会
芝浦メカトロニクス株式会社	野村ホールディングス株式会社
新日鉱グループ	株式会社博報堂DYホールディングス
新日鉱ホールディングス株式会社	パナソニック株式会社
日鉱金属株式会社社員一同	パナソニック電工株式会社
日鉱金属株式会社	バンクテック・ジャパン株式会社
株式会社ジャパンエナジー	株式会社日立製作所
JOMO ふれあい基金	株式会社ピーネスト
新日本石油グループ	広島県立江田島高等学校
新日本石油株式会社	ファイザー株式会社
新日本石油開発株式会社	富士通グループ
スターツコーポレーション株式会社	ボランティアJ（JALグループ社員募金）
スターツ首都圏千曲会	毎日新聞社会事業団
株式会社スターライズ	三井住友海上グループ

三井物産株式会社
三菱地所グループ
三菱自動車工業株式会社
三菱重工業株式会社
株式会社三菱総合研究所
株式会社三菱東京 UFJ 銀行
民主党
ヤフー株式会社
ユニリーバ・ジャパン株式会社
株式会社ヨンゴー
ロート製菓株式会社
※個人の皆様からのご寄付 501 件

サービスによるサポート

イーココロ！
「ウェブを通じたクリック募金紹介の協力」
AFP 通信
「ウェブを通じた情報発信の協力」
全日本空輸株式会社
「物資輸送・支援者渡航へ協力」
株式会社日本航空
「物資輸送・支援者渡航へ協力」
日本郵船グループ
「物資輸送のお申し出」
Bangkok Airways Co., Ltd.
「物資の航空輸送協力（広島空港からヤンゴン空港まで）」
広島県トラック協会
「物資の陸上輸送協力（広島空港まで）」
株式会社三菱東京 UFJ 銀行
「義援金口座の開設（振込手数料免除）」
ヤフー株式会社
「ウェブを通じた募金紹介の協力」

物資によるサポート

株式会社アシックス
「T シャツ・トレーニングパンツ 13,845 着の提供」
イオン株式会社
「トタン板 10,080 枚の提供」
株式会社サタケ
「インスタントライス 13,000 食の提供」
広島県
「ブルーシート 1,500 枚の提供」

組織力によるサポート

ミャンマー商工会議所連盟（UMFCCI）
「JPF 参加 NGO との支援事業の連携」
ヤンゴン日本人商工会議所（JCCY）
「現地情報の共有、現地団体への仲介」
日本商工会議所
「ヤンゴン日本人商工会議所への仲介」
社団法人日本経済団体連合会
「日本経団連 1%クラブニュースを通じた義援金呼びかけ」

※支援者一覧には、正式名称等の情報が確認できた企業・団体のみを掲載させて頂きました。
50 音順

各NGOの強みを活かした支援を実施しました。

特定非営利活動法人(認定NPO法人) 難民を助ける会(AAR JAPAN)

<http://www.aarjapan.gr.jp/>



野際 紗綾子

2005年4月より東京事務局職員としてアジア事業・緊急支援・障害者支援活動を担当

保健医療から栄養改善、障害者まで幅広い支援を実施

エヤワディ管区の3地区130村において、保健医療・栄養改善・障害者支援を実施しました。

保健医療支援では、被災者の健康・栄養状態を改善し感染症の蔓延を防ぐため、AARと現地協力団体によって構成される2つの保健医療チームが簡易医療施設を設置、周辺の村の被災者も含めて診療を行いました。また、保健医療管理委員会の設置や保健医療アシスタントへの2週間の集中研修を通して、本事業終了後も現地の人々が基礎的保健医療活動を継続できるようにしました。

栄養改善支援では、基本食(一世帯当たり米12kg、豆2kg、油2ℓ、塩500g)と肥料を活動地域の全世帯へ配布すると同時に、AAR作成の教材を活用した栄養教育を行い、被災者が深刻な栄養不良状態になることを防ぎました。

障害者支援では、AAR作成の障害理解冊子を用いた啓発活動を通じて、差別の対象となりやすく情報や支援の行き届きにくい障害者への理解を促進しました。

感謝の言葉

「私たちのことを忘れないでいてくれて、ありがとう」と握りしめた手を離さない方、涙を流しながら「ありがとう」と繰り返す方、米袋を見て踊りだす方。そんな被災者に出会うたびに、本事業はミャンマーの被災者を大きく勇気づけていると確信しました。家族、住居、仕事を一度に失い、不安と絶望の淵に立たされていた時、JPFを通じた支援が被災者のもとへと届いたので、温かいご支援、本当にありがとうございました。



支援物資を奥地の被災地へボートで輸送
©AAR



食料などの支援物資をラプタ地区ティンガンジー村で配布
©AAR

社団法人 アジア協会アジア友の会(JAFS)

<http://www.jafs.or.jp/>



永井 博記

テクニカル・アドバイザー

被災者に届いた日本米のおいしさと支援者の思い

ミャンマー・サイクロン「ナルギス」の支援事業の一環として、日本米の輸送・配布を行いました。

本事業の特長は、ミャンマー国内の米不足が予測される中、JPFの支援スキームのひとつである企業物資配布を活用させていただいたことです。日本郵船グループ様からご支援を受け、日本米をミャンマーへ無事に輸送できました。また、JAFS会員との連携として、幸南食糧様が筆頭に多くの企業・団体から日本米の供与を受けました。この双方のご支援があり、本事業の実施が可能になりました。

食糧が不足していた被災者に日本米を配布し、一食を満たすことができたと同時に、日本のお米のおいしさをご支援くださった皆様の思いと共に味わっていただけたことが、事業を実施したことの大きな意義となりました。

ミャンマーの高級米以上に日本米は味や匂いが良かったと、被災者から感想を受けています。ご支援くださった企業、団体、個人の皆様に心より感謝を申し上げます。

感謝の言葉

本事業を支えてくださった企業の皆様に心より感謝申し上げます。日本の企業の皆様からのご支援があり、本事業は達成が可能になりました。JAFSは今回のような事業を実施するのは初めてでしたので、多くの方々にご迷惑をおかけしましたが、無事に支援物資を被災者へ届けることができました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。



日本米を受け取る被災者の女性
©JAFS



本事業の意義を被災者に説明する現地スタッフ
©JAFS



三上 泰

海外事業部
プログラムオフィサー
ミャンマーサイクロン以来、
現地にて活動中

家を失くした人々の暮らしを救った シェルターキット

サイクロン直後に被災地入りし、ほとんどの家屋が流され、壊滅的な打撃を受けたエヤワディ管区において、住宅再建資材一式が入った「シェルターキット」の配布を実施しました。

11ヶ月間で、エヤワディ管区の特に被害の大きかった地域の4,500世帯にシェルターキットを、また、全壊・半壊した小学校42校にイオングループ様からご提供いただいた屋根用トタン10,080枚を配布しました。

被災直後、避難所もしくは拾った資材とブルーシートで作った雨風もしのげないような小屋へ避難していた人々が、シェルターキットを使って安心して暮らせる家を立てられるようになりました。

「被災前に住んでいた家と同じような材料をもらえて本当に嬉しい」「強い雨風が降ってきても安心して眠れる」など、村の人々からとても喜ばれました。ミャンマー人スタッフも、自分たちだけではできない支援ができることを喜び、一生懸命、被災者のために働いてくれました。

感謝の言葉

皆様から多大なるご支援をいただき、NGOの住宅再建の支援規模として、全被災地で最大数の支援を行うことができたことを心より感謝申し上げます。ミャンマー人とともに考えた支援活動で、被災者にも本当に喜んでいただけた活動になりました。また、ミャンマー側でパートナーとして活動していただいたミャンマー商工会議所連盟やJETROの皆様にも、この場を借りてお礼申し上げます。



ビャクエジー村で配布したシェルターキットで建てられた家
©JEN



ニャウンターヤ村で村総出の歓迎を受ける
©JEN



静谷 大輔

ミャンマー事業担当

トラウマケアで学校に来ることが楽しみに

支援がほとんど行き届いていないエヤワディ管区の4つの学校において、約450名の子どもたちを対象に、サイクロン襲来で負った心の傷を癒すトラウマケア事業を実施しました。同時に、サイクロンにより壊れた学校校舎やトイレ・給水タンクの修繕、机や椅子、文房具を提供することで学習環境の向上に努めました。

その結果、多くの子どもたちが笑顔を取り戻し、勉学に集中できる環境を得ることができました。特に、課外活動として実施した「絵」や「音楽」の授業は、楽しい時間を過ごすことが少ない子どもたちにとって大きな楽しみとなったようです。ある校長先生は、「今まで休みがちな生徒が、課外活動が楽しみで学校に来るようになった」と話してくれました。

ミャンマーでの支援活動は、政府当局との連携やビザの発行など複雑な事務手続きが伴いましたが、JPF事務局の手厚いサポートや加盟NGO同士の情報共有など、JPFの仕組みのおかげで無事に実施することができました。

感謝の言葉

ご支援いただいた日本の皆様にも、現地子どもたちに代わって御礼申し上げます。100年振りにミャンマーを襲ったサイクロンは、学校校舎だけでなく子どもたちの心にも傷を残しましたが、皆様のご支援により彼らの心理状態は大幅に改善されました。アシックス様からは子どもたちがスポーツを楽しめるようスポーツウエア250着をご提供いただき、輸送には日本郵船グループ様からのご協力を承りました。重ねて御礼申し上げます。



学習環境が向上した
絵画の課外活動
©KnK



専門家による心理調査を実施
©KnK

特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)

<http://www.peace-winds.org/>



高橋 裕子

2008年6月から2009年3月まで事業調整員として現地事務所駐在

支援が進むにつれやわらいだ被災者の表情

2008年5月11日からヤンゴンにスタッフを派遣し、調査を開始。第一期事業として、被災10,000世帯に対する緊急生活物資の配給を行いました。また、配給を実施した村からの強い要望に応え、第二期事業として、地域の人々が自主運営するコミュニティスクールの修復を行いました。

支援開始当時、訪れた村々には、なぎ倒された大木や家屋など、サイクロンの爪跡が生々しく残っており、人々の表情はこわばり、子どもたちに話しかけても緊張した顔を向けるだけでした。しかし、村人と共に学校修復を進めていくうちに、人々の表情は徐々にほぐれてきて、子どもたちも笑顔で駆け寄ってくるようになりました。

「サイクロンが村を襲った時、私は波にさらわれ、流されてしまい、必死に流木につかまっていた。一人きりになってしまったので怖かったです」

当時の様子をそう語っていた少女は、今、新校舎で将来の夢を語り、友達と勉強しています。

感謝の言葉

NGO間、政府、企業や個人の皆様からのご協力とご支援のおかげで、PWJの強みを生かし、被災直後から現場のニーズに即した迅速な支援を実施することができました。事業地でも多くの被災者の方々から、ご支援くださった皆様への感謝の言葉をいただきました。サイクロンの打撃から一丸となって立ち直ろうとする被災者の方々と、皆様からのご支援の橋渡し役として、本事業に従事できたことに、大変感謝しております。



緊急生活物資を受け取る被災者の女性 ©PWJ



修復したコミュニティスクールの前で記念撮影 ©PWJ

社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(SCJ)

<http://www.savechildren.or.jp/>



園田 智也

事業部 アジアII
プログラム・オフィサー

被災地から高い評価を得た迅速な支援

サイクロンによる被災後、直ちに被害状況の調査にあたり、特に被害が深刻なヤンゴン周辺およびエヤワディ管区で支援活動を開始しました。

災害発生後1ヶ月間で3万を超える被災家庭に対し、食糧、生活用品、衣服といった緊急物資の配布を実施しました。1ヶ月後からは学校校舎の修復や仮設教室の設置、教材配布による子どもたちの学習環境の整備を、3ヶ月後からは被災した漁民世帯の生計再建を目的としてボートや魚網などの配布および管理方法についての研修を行いました。

私は、被災直後の緊急物資の配布に現地駐在員として携わりました。JPFの助成による今回の支援活動は、他国に先駆け活動として現地からの評価も非常に高く、サイクロンにより一夜にして生活が一変してしまった多くの子どもたちに、迅速に支援を届けることができました。文房具を受け取り、満面の笑みを浮かべる子どもたちの表情が印象的でした。

感謝の言葉

今回の支援活動は、JPFに寄せられた政府支援金および民間資金をはじめ、皆様からのご支援のもと実施することができました。JPFの助成による支援事業は2009年4月末をもって終了いたしました。同事業で培った経験をもとに、現在も自己資金にて被災者支援を継続しています。これまでご支援・ご協力いただきました皆様に、この場を借りて深く御礼申し上げます。



支援物資を受け取る住民たち ©SCJ



破損した校舎の前に集う子どもたちとスタッフ ©SCJ

特定非営利活動法人 SEEDS Asia(SEEDS)

<http://www.seedsasia.org/>



今井 彬暁

プロジェクトオフィサー
ミャンマー事業担当

復興に対する被災者の意欲を高めた防災支援

サイクロン「ナルギス」によって被害を受けたヤンゴン管内のタウンシップで、現地の防災政策に携わる政府関係者や住宅建設従事者に集まっていたき、より安全な仮設住宅建設のためのトレーニング・ワークショップを開催しました。

ワークショップ終了後に行われた参加者へのアンケート調査では、国家レベルのガイドライン策定も視野に入れた同様のトレーニング・ワークショップの再開を希望する声が多く聞かれました。また、実地トレーニングでは、モデル住宅を使い、基本的かつ重要な技術ポイントをわかりやすく説明したことが好評を得、参加者からは「今後は自分の居住地で自ら知識を普及していきたい」といった建設的な発言が相次ぎました。

仮設住宅建設が始まっていた被災後 4 ヶ月の時期でのトレーニングは、非常にタイムリーで、現地の人々の復興への意欲を良い意味で技術的にサポートできたと実感しています。

感謝の言葉

本事業がSEEDSにとって初めてのJPF事業でした。ご寄付いただいた皆様、また、事業実施の機会を与えてくださったJPF関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。現在もSEEDSは、JPF資金ならびに他財源を活用して、ヤンゴンおよびエヤワディ管区で学校防災事業を実施しております。これも最初にJPFを通じて、ミャンマー支援の機会をいただいたおかげです。今後とも防災文化の普及にむけて努力して参ります。



モデル住宅を使って基本的かつ重要な技術ポイントを学ぶ参加者
©SEEDS



ワークショップでより安全な仮設住宅建設の知識を得た
©SEEDS

特定非営利活動法人(認定NPO法人) ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)

<http://www.worldvision.jp/>



坂 賢二郎

海外事業部
緊急人道支援課 課長

ニーズの高い物資や教育の支援を迅速に展開

2008年5月から約3ヶ月間、ピャポン地区とデディエ地区において、緊急支援物資の配布事業を実施し、サイクロン被災直後から被災者の方々へ必要な物資を届けることができました。また9月からの9ヶ月間は、ボガレ・タウンシップにおいて、サイクロンにより全壊した初等学校に代わる、耐久性の高い初等学校を設置する事業を実施しました。当時、不足していた教育分野への復旧支援を通じて、子どもたちに安全な学習環境を提供することができました。

貧困の中で暮らすデルタ地帯の人々にとって、何もかもを失った被災の後で、自らの力で日常生活を取り戻すことは困難でした。そうした状況の中、JPFを通じて早い段階から現地カウンターパートと共に支援活動を実施できたことは、被災地に大きなインパクトをもたらしました。

支援を受けながら直面する現実を乗り越え、徐々に元気を取り戻していく被災者の姿に、私たちも励まされつつ支援事業を実施することができました。

感謝の言葉

今回、サイクロンに被災した人々の必要に合った支援を実施することができたのは、日本政府や経済界をはじめ、ご支援いただいた皆様の被災地や私たちの活動に対する深い理解があったからに他なりません。今後もWVJはJPFと連携しつつ、適切で効果的な支援活動を実施していきたいと思っておりますので、引き続きお力添えいただければ幸いです。ありがとうございました。



支援物資を荷降ろしするスタッフと配布を待つ被災者
©WVJ



支援により再建された初等学校と新たな学校を喜ぶ被災者
©WVJ

今回の支援事業で得た教訓を、次へとつなげます。

モニタリング概要

※肩書は当時、敬称略

第1回 派遣者 : 青木政幸 JPF 理事
 桑名忠 JPF 事務局 事業統括
 一宮尚美 JPF 事務局 事業部員
 調査地 : ヤンゴン管区
 調査期間 : 2008年7月6日～7月15日
 調査内容 : 事業地視察 (JEN、NICCO、SCJ)
 情報交換等 (日本大使館、JICA、
 JETRO/ヤンゴン日本人商工会議所、
 ミャンマー商工会議所連盟、国連機関)

第2回 派遣者 : 鈴木光一 JPF 事務局 事務局長
 一宮尚美 JPF 事務局 事業部員
 瀧田真理 NGO 専門調査員
 調査地 : ヤンゴン管区、エヤワディ管区
 調査期間 : 2008年11月23日～12月21日
 調査内容 : 事業地視察 (AAR、HuMA、JEN、KnK、PWJ、SCJ)
 情報交換等 (日本大使館、支援企業、JICA、
 JETRO/ヤンゴン日本人商工会議所、
 ミャンマー商工会議所連盟、国連機関)

第3回 派遣者 : 岡本郁子 オーストラリア国立大学 客員研究員
 一宮尚美 JPF 事務局 事業部員
 調査地 : ヤンゴン管区、エヤワディ管区
 派遣期間 : 2009年5月17日～6月3日
 調査内容 : 事業地視察 (JEN、KnK、SCJ、WVJ)
 情報交換等 (日本大使館、JICA、
 JETRO/ヤンゴン日本人商工会議所、
 ミャンマー商工会議所連盟、国連機関)

JPF事務局によるモニタリング(第2回)にて、JENとミャンマー商工会議所連盟による「シェルターキット」配布の事業地を視察
 ©JPF



主な評価

JPFの機能が発揮された迅速な支援

日本大使館、JICA、支援企業などが現地で蓄積した信頼・人脈を活用することにより、JPF参加団体が被災直後から迅速な支援を展開できたことは、多方面にネットワークを持つJPFの機能が存分に発揮された結果だと言える。

ビジネス界との連携による画期的な緊急支援

JETRO/ヤンゴン日本人商工会議所の紹介により、現地に豊富なネットワークを持つミャンマー商工会議所連盟から協力を得られたことは、迅速かつ効果的な緊急支援の実施に大きく寄与した。こうした日本や被災国のビジネス界との連携は、今後も強く期待される。

現地で不足しがちな支援分野への対応

耐久性の高い住宅建築を促す防災技術支援や、災害時に支援の届きにくい障がい者への支援など、ミャンマーで不足しがちだった支援分野に対応できたことは、高く評価できる。

専門家の視点

日本によるミャンマーへの貴重な支援チャンネルとなったJPF事業

本事業の貢献は大きく二点あるだろう。

ひとつめは、JPF参加団体が支援の到達が遅れた地域や分野へ積極的に乗り出し、きめ細かな支援を行ったことである。被害が大きかったデルタ地域はもともとシェルター、飲料水、学校などのベーシックニーズが十分満たされてこなかった地域である。被災地に関する基本的な情報は不足しがちで、地形や天候によりロジスティクスにおいても様々なハードルが存在した。それにもかかわらず、時間的制約がある中、被災者ニーズが高い分野への支援が実施されたことは高く評価できる。

ふたつめは、本事業が日本の対ミャンマー支援の貴重なチャンネルとなったことである。現地政府、裨益者も日本からの支援であることを認識した上で、JPF事業を高く評価していた。通常の公的資金による支援チャンネルが細い状況を補う形で、日本という看板をしっかりと背負いながらの支援を可能にしたことは大きな成果である。

今後もJPFの機能をフル活用し、支援の届きにくい地域・分野において、効果的な支援活動に励まれることを期待したい。



岡本 郁子 氏

オーストラリア国立大学・客員研究員
 日本貿易振興機構アジア経済研究所・海外研究員
 ミャンマー地域研究、特に農業・農村経済が専門

主な提言

被災者の生活再建に向けた支援の拡充

現地では被災後1年が経過しても、支援物資で生活する人が多数見られた。今後は、食糧や生活用品などの緊急物資を配布した後に、物資配布を受けた被災者に対し、生活再建を見据えた量・質両面における支援の拡充が望まれる。

裨益者選定におけるさらなる配慮

コミュニティ内で特定のグループを選定し支援を実施する場合、被災者の間で不公平感が生まれないよう、相互扶助の精神を活用するなど配慮が望まれる。コミュニティとの関係構築の初期には、詳細なニーズの把握が難しいため、ニーズ抽出にさらなる工夫も求められる。

事業から得た教訓の情報整備と活用

多様な支援が行われた本事業から得られる教訓に対し、JPF全体で情報整備に取り組み、同様の支援が実施された場合に活かすことで、さらに質の高い支援が期待できる。

事業期	団体名	事業名	実施期間	財源	当初予算額	
初動 調査	HuMA	ミャンマーにおけるサイクロン「ナルギス」被災者支援初動調査	始期: 2008年5月17日 終期: 2008年5月28日	政府	¥1,950,000	
	JAFS	ミャンマーにおけるサイクロン「ナルギス」被災者緊急支援のための初動調査事業	始期: 2008年5月28日 終期: 2008年6月6日	政府	¥1,592,047	
	JEN	ミャンマーにおけるサイクロン「ナルギス」被災合同調査	始期: 2008年5月9日 終期: 2008年5月28日	政府	¥2,684,272	
	KnK	ミャンマー・サイクロン「ナルギス」被災者支援初動調査事業	始期: 2008年6月7日 終期: 2008年6月22日	政府	¥2,110,440	
	NICCO	ミャンマーにおけるサイクロン「ナルギス」被災合同調査	始期: 2008年5月9日 終期: 2008年5月28日	政府	¥3,409,870	
	PWJ	ミャンマーにおけるサイクロン「ナルギス」被災合同調査	始期: 2008年5月9日 終期: 2008年5月28日	政府	¥3,820,253	
	WVJ	ミャンマー連邦におけるサイクロン「ナルギス」被災者支援初動調査	始期: 2008年5月10日 終期: 2008年5月22日	政府	¥821,546	
対応	AAR	エヤワディ管区およびヤンゴン管区におけるサイクロン被災者緊急支援物資配布事業	始期: 2008年7月10日 終期: 2008年8月31日	政府	¥81,598,475	
	JEN	エヤワディ管区およびヤンゴン管区におけるサイクロン「ナルギス」被災者緊急支援	始期: 2008年5月29日 終期: 2008年10月3日	政府 民間	¥89,923,320 ¥5,117,500	
	JEN	エヤワディ管区及びヤンゴン管区におけるサイクロン「ナルギス」被災者緊急支援トタン配布事業	始期: 2008年6月13日 終期: 2008年9月30日	政府 民間	¥5,923,480 ¥2,682,320	
	KnK	ヤンゴン管区における青少年教育支援事業	始期: 2008年8月11日 終期: 2008年9月30日	民間	¥2,437,120	
	NICCO	エヤワディ管区およびヤンゴン管区におけるサイクロン被災者への緊急物資配給と緊急医療支援	始期: 2008年5月29日 終期: 2008年8月24日	政府 民間	¥64,409,909 ¥10,072,500	
	PWJ	エヤワディ管区およびヤンゴン管区におけるサイクロン「ナルギス」緊急物資配給	始期: 2008年5月29日 終期: 2008年8月31日	民間 政府	¥3,055,000 ¥100,005,393	
	SCJ	ヤンゴン管区及びエヤワディ管区における緊急支援物資配布事業	始期: 2008年5月12日 終期: 2008年6月10日	政府	¥72,260,520	
	SCJ	ヤンゴンとエヤワディの両管区における緊急教育支援事業	始期: 2008年6月13日 終期: 2008年8月16日	政府	¥75,532,480	
	WVJ	エヤワディ管区におけるサイクロン被災者緊急支援物資配布事業	始期: 2008年5月23日 終期: 2008年8月10日	政府	¥64,792,630	
		小計:16事業			政府 民間	¥594,199,075 ¥570,834,635 ¥23,364,440
	緊急	AAR	エヤワディ管区におけるサイクロン被災者への保健医療、栄養改善および障害者支援事業	始期: 2008年9月1日 終期: 2009年1月31日	民間	¥55,941,124
HuMA		ミャンマー・エヤワディ管区における医療システム緊急支援事業	始期: 2008年8月27日 終期: 2009年2月5日	民間	¥7,999,840	
JEN		エヤワディ管区におけるサイクロン被災者緊急支援事業第2期	始期: 2008年10月17日 終期: 2009年4月16日	政府 民間	¥70,149,500 ¥8,398,200	
KnK		エヤワディ管区における青少年教育支援事業	始期: 2008年10月16日 終期: 2009年5月13日	民間	¥9,956,660	
PWJ		エヤワディ管区におけるサイクロン被災公共施設修復支援事業	始期: 2008年10月27日 終期: 2009年2月27日	民間 政府	¥8,557,500 ¥21,392,920	
SCJ		エヤワディ管区における緊急漁業復旧支援事業	始期: 2008年8月17日 終期: 2009年4月30日	民間 政府	¥8,343,550 ¥67,284,820	
SEEDS		ヤンゴン管区におけるサイクロン被災者向け仮設住宅建設の技術支援及び人材育成事業	始期: 2008年8月1日 終期: 2008年9月30日	民間	¥4,977,522	
WVJ		ボガレ・タウンシップにおける仮設初等学校設置事業	始期: 2008年9月1日 終期: 2009年5月31日	政府	¥80,754,187	
		小計:8事業			政府 民間	¥343,755,823 ¥239,581,427 ¥104,174,396
復旧	SEEDS	エヤワディ管区ラプタ県における学校防災教育訓練事業 ★	始期: 2009年8月1日	民間	¥9,319,387	
	KnK	エヤワディ管区における青少年への教育支援事業	始期: 2009年6月1日 終期: 2009年7月30日	民間	¥18,286,360	
		小計:2事業		政府 民間	¥27,605,747 ¥0 ¥27,605,747	
モニタリング	JPF	ミャンマーサイクロン被災者支援フォローアップ事業	始期: 2008年7月1日 終期: 2009年6月2日	政府	¥7,380,180	
	JPF	ミャンマー・サイクロン被災者支援報告事業	始期: 2008年12月1日 終期: 2009年11月30日	民間	¥3,916,100	
		小計:2事業		政府 民間	¥11,296,280 ¥7,380,180 ¥3,916,100	
物資輸送	AAR	ミャンマー(ビルマ)・エヤワディ管区及びヤンゴン管区におけるサイクロン被災者への衣料支援事業	始期: 2009年5月1日 終期: 2009年6月11日	民間	¥453,000	
	KnK	ミャンマーにおける企業支援物資輸送・配布事業	始期: 2009年4月1日 終期: 2009年6月30日	民間	¥191,000	
	JAFS	ミャンマー・サイクロン「ナルギス」被災者へ日本米を送り届ける事業	始期: 2008年7月5日 終期: 2008年8月31日	民間	¥540,000	
	PWJ	エヤワディ管区及びヤンゴン管区におけるサイクロン「ナルギス」企業等支援物資輸送・配給事業	始期: 2008年6月15日 終期: 2008年8月31日	民間	¥1,174,400	
		小計:4事業			政府 民間	¥2,358,400 ¥0 ¥2,358,400
	合計:32事業			政府 民間	¥979,215,325 ¥817,796,242 ¥161,419,083	

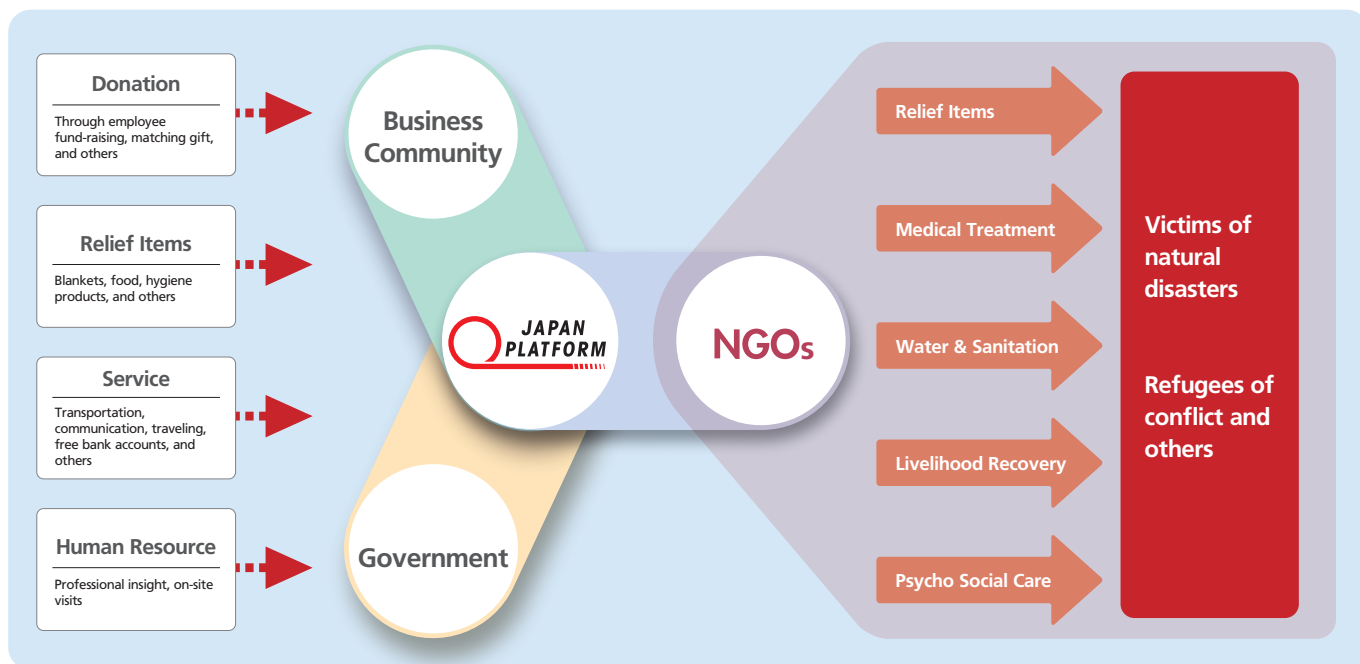
※ 現在実施中の事業があるため、当初予算額のみ掲載。

※ ★の事業は現在も実施中。

※ 最終会計報告は全事業終了後、JPF ウェブサイトにて掲載予定。

※ 事業名については、契約書記載のものとする。

Japan Platform (JPF) is a Japanese organization in which NGOs, business community, and the government collaborate together with civil society to provide international humanitarian aid.



JPF conducts many activities such as public relations to vitalize international humanitarian aid in Japan.



Public Relations

We raise awareness of JPF's activities among the public. (The picture is a clip from Global Festa Japan 2009.)



Workshops

Collaboration with the Coexistence Humanitarian Aid Research Group at Osaka University to conduct the "Psycho Social Care" Workshop.



Collaboration with Corporations

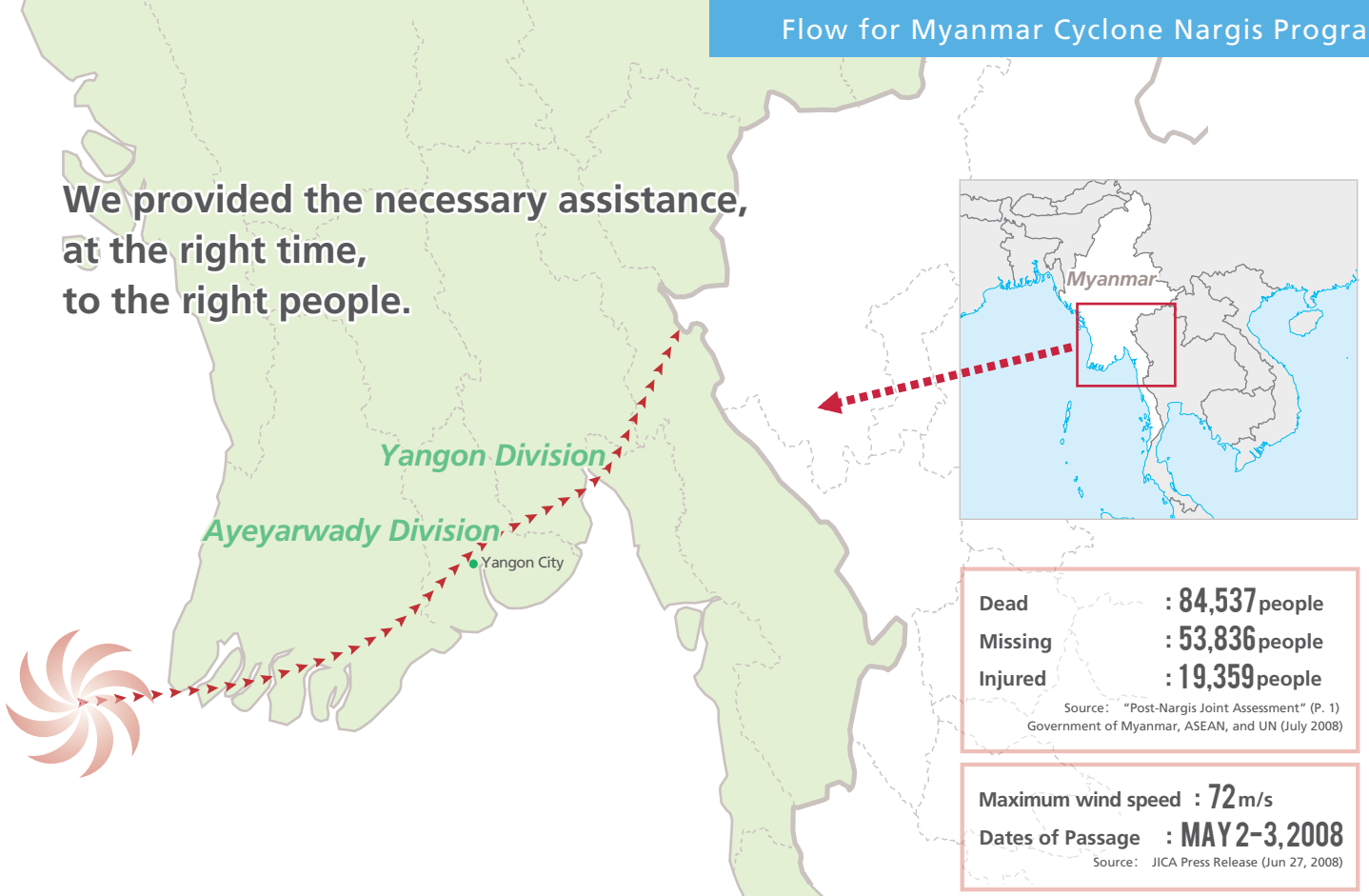
Receiving donation support from intra-company charity concerts held by Nomura Group.

Since its establishment in 2000, JPF has funded 10.4 billion Yen to implement 456 relief projects in 30 countries and regions.



As of November 2009

We provided the necessary assistance,
at the right time,
to the right people.



Dead : 84,537 people
Missing : 53,836 people
Injured : 19,359 people

Source: "Post-Nargis Joint Assessment" (P. 1)
Government of Myanmar, ASEAN, and UN (July 2008)

Maximum wind speed : 72m/s
Dates of Passage : MAY 2-3, 2008

Source: JICA Press Release (Jun 27, 2008)

USD1 = 91.52 Yen

1. Initial Assessment and Response

May 12, 2008 ~
594,199,075 Yen

Implementing NGO

AAR, HuMA, JAFS, JEN, KnK, NICCO, PWJ, SCJ, WVJ

Type of Assistance

Initial Assessment, Food Distribution
Daily Life Supply Distribution
Medical Treatment Relief
Shelter Distribution, Education and School Support
Corporate Relief Item Distribution
Monitoring

2. Emergency Assistance

Aug 1, 2008 ~
343,755,823 Yen

Implementing NGO

AAR, HuMA, JEN, KnK, PWJ, SCJ, SEEDS, WVJ

Type of Assistance

Food Distribution, Daily Life Supply Distribution
Medical Treatment Relief
Relief for the Disabled, Shelter Distribution
Education and School Support
Disaster Prevention Assistance, Subsistence Relief
Corporate Relief Item Distribution
Monitoring

3. Recovery Assistance

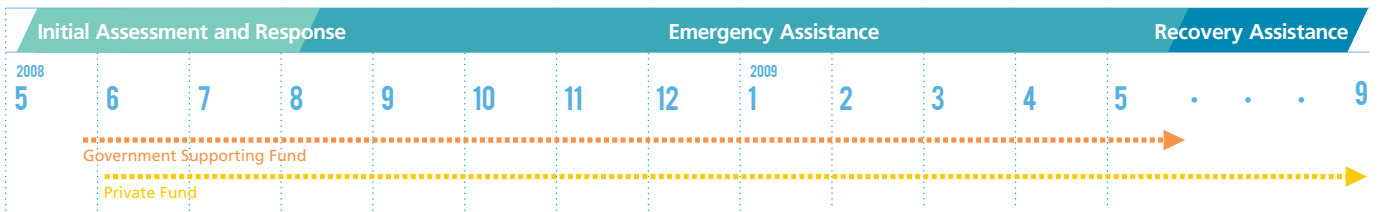
Jun 1, 2009 ~
27,605,747 Yen

Implementing NGO

KnK, SEEDS

Type of Assistance

Education and School Support
Disaster Prevention Assistance
Corporate Relief Item Distribution
Monitoring



*Projects planned to be continued through self-funding and other supporting funds after completion of the JPF program.

Total count of 651 supports was provided through corporations, organizations and individuals.
We express our utmost and sincere appreciation for all of your support.



Initial Assessment and Response
Aid recipients smiling in front of the shelter provided by JEN. ©JEN



Emergency Assistance
SCJ staff distributing boats to the affected fishermen in Ayeyarwady Division. ©SCJ



Recovery Assistance
Local staffs at a meeting for assessment to launch a project of education and training for school disaster prevention. ©SEEDS

We provided relief utilizing the strengths of each NGO.

JEN

<http://www.jen-npo.org/>



Yasushi Mikami

Overseas Project
Department
Program Officer

Shelter kit that saved lives for people who lost their homes

Immediately after the cyclone, in the devastated areas of Ayeyarwady Division where most houses were washed away, we distributed "shelter kits," a complete set of materials for house rebuilding.

In 11 months, we distributed shelter kits to 4,500 households in the areas of Ayeyarwady Division most affected by the disaster, and 10,080 tin roof sheets provided by Aeon Group to 42 elementary schools that were completely or half destroyed.

Immediately after the disaster, people who evacuated into asylums or cabins built with tarp and available materials that cannot keep rain and wind out, were able to build safe homes by using our shelter kits.

Aid recipients were pleased with our support, and voiced opinions such as, "it was really glad to be provided with materials similar to that used for my house before the disaster," and "I can get good sleep even during heavy rain and wind." Our Myanmar staff members were also very happy for being able to provide relief that they could not provide alone, and worked very hard for the affected people.

Words of Appreciation

We are truly grateful for the support of everyone around us, which enabled us to provide the largest scale of house re-construction relief. Since this project has been discussed with the villagers, they were satisfied with the result. We would also like to use this opportunity to thank members of the Myanmar Chamber of Commerce and JETRO who worked with us as partners in Myanmar.



Houses built with JEN's shelter kit in Byet Kwe Gyi village. ©JEN



Welcomed by the entire Nyaung Tha Yar village. ©JEN

Save the Children Japan (SCJ)

<http://www.savechildren.or.jp/>



Save the Children
JAPAN



Tomoya Sonoda

Program Division Asia II
Program Officer

Prompt support received high acclaim from the affected areas

After the cyclone, we immediately conducted an assesment of the damage situation, and started our relief activities in the affected divisions of Yangon and Ayeyarwady.

Within one month after the cyclone, we provided emergency distribution of food, daily life products, and clothes to over 30,000 families.

Then, we developed an education environment for children, including school building repair, temporary classroom construction, and teaching material distribution. After three months of the cyclone, we also aimed to reestablish the lives of households in the fisherman's villages and provided boats and fishing nets as well as training to manage those equipment.

I was involved in the distribution of emergency relief items as a local representative. Our relief activities with the support from JPF have been highly praised by other organizations. That also enabled us to promptly provide aid to many children whose lives were devastated overnight. The bright smiles on children's faces when they received stationery from us were very impressive.

Words of Appreciation

Our relief activities became possible with the government and private funds collected through JPF, and with the support of everyone around us. Though our project funded by JPF has completed the end of April 2009, based on our experiences gained through this project, we are continuing our relief activities with our own funds.



People receiving relief items. ©SCJ



Children and SCJ staff in front of a damaged school building. ©SCJ

Project Term	Organization	Project Name	Term of Operation	Source of Fund	Initial Budget
Initial Assessment	HuMA	Initial Assessment for Relief of Cyclone "Nargis" Victims in Myanmar	Beginning Date : 2008.5.17 End Date : 2008.5.28	Government	¥1,950,000
	JAFS	Initial Assessment Project for Emergency Relief of Cyclone "Nargis" Victims in Myanmar	Beginning Date : 2008.5.28 End Date : 2008.6.6	Government	¥1,592,047
	JEN	Joint Assessment of Disaster caused by Cyclone "Nargis" in Myanmar	Beginning Date : 2008.5.9 End Date : 2008.5.28	Government	¥2,684,272
	KnK	Exploratory Mission for Relief of Cyclone "Nargis" Victims in Myanmar	Beginning Date : 2008.6.7 End Date : 2008.6.22	Government	¥2,110,440
	NICCO	Joint Assessment of Disaster caused by Cyclone "Nargis" in Myanmar	Beginning Date : 2008.5.9 End Date : 2008.5.28	Government	¥3,409,870
	PWJ	Joint Survey Mission for needs assessment on relief operation for Cyclone "Nargis"	Beginning Date : 2008.5.9 End Date : 2008.5.28	Government	¥3,820,253
	WVJ	Initial Assessment for Relief of Cyclone "Nargis" Victims in Myanmar	Beginning Date : 2008.5.10 End Date : 2008.5.22	Government	¥821,546
Response	AAR	Project of Emergency Relief Supply Distribution for Cyclone Victims in Ayeyarwady Division and Yangon Division	Beginning Date : 2008.7.10 End Date : 2008.8.31	Government	¥81,598,475
	JEN	Emergency Relief for Cyclone "Nargis" Victims in Ayeyarwady Division and Yangon Division	Beginning Date : 2008.5.29 End Date : 2008.10.3	Government Private	¥89,923,320 ¥5,117,500
	JEN	Emergency Relief Zinc Roof Distribution Project for Cyclone "Nargis" Victims in Ayeyarwady Division and Yangon Division	Beginning Date : 2008.6.13 End Date : 2008.9.30	Government Private	¥5,923,480 ¥2,682,320
	KnK	Project of Educational Support for Children affected by the Cyclone "Nargis" in Yangon Division, Myanmar	Beginning Date : 2008.8.11 End Date : 2008.9.30	Private	¥2,437,120
	NICCO	Emergency Relief Supply Distribution and Medical Support for Cyclone Victims in Ayeyarwady Division and Yangon Division	Beginning Date : 2008.5.29 End Date : 2008.8.24	Government Private	¥64,409,909 ¥10,072,500
	PWJ	Food and NFI distribution for Cyclone "Nargis" Relief in Ayeyarwady and Yangon Divisions	Beginning Date : 2008.5.29 End Date : 2008.8.31	Private Government	¥3,055,000 ¥100,005,393
	SCJ	Distribution of Relief Supplies in Yangon Division and Ayeyarwady Division	Beginning Date : 2008.5.12 End Date : 2008.6.10	Government	¥72,260,520
	SCJ	Emergency Education Support in Yangon Division and Ayeyarwady Division	Beginning Date : 2008.6.13 End Date : 2008.8.16	Government	¥75,532,480
	WVJ	Emergency Relief for Cyclone' s Victims in Ayeyarwady Division	Beginning Date : 2008.5.23 End Date : 2008.8.10	Government	¥64,792,630
		Subtotal: 16 Projects			Government Private
Emergency	AAR	Project of Public Health, Nutrition Improvement and Support for the Persons with Disabilities in the Cyclone affected areas in Ayeyarwady Division	Beginning Date : 2008.9.1 End Date : 2009.1.31	Private	¥55,941,124
	HuMA	Project of Medical System Emergency Support in Ayeyarwady Division of Myanmar	Beginning Date : 2008.8.27 End Date : 2009.2.5	Private	¥7,999,840
	JEN	2nd Term Project of Emergency Relief for Cyclone Victims in Ayeyarwady Division	Beginning Date : 2008.10.17 End Date : 2009.4.16	Government Private	¥70,149,500 ¥8,398,200
	KnK	Project of Educational Support for Children affected by the Cyclone "Nargis" in Ayeyarwady Division, Myanmar	Beginning Date : 2008.10.16 End Date : 2009.5.13	Private	¥9,956,660
	PWJ	Community School Rehabilitation for Cyclone Relief in Ayeyarwady Division	Beginning Date : 2008.10.27 End Date : 2009.2.27	Private Government	¥8,557,500 ¥21,392,920
	SCJ	Emergency Fishery Recovery Project in Ayeyarwady Division	Beginning Date : 2008.8.17 End Date : 2009.4.30	Private Government	¥8,343,550 ¥67,284,820
	SEEDS	Technical Support Projects for Cyclone Victims in Yangon Division through Safer Shelter Construction and Capacity Building	Beginning Date : 2008.8.1 End Date : 2008.9.30	Private	¥4,977,522
	WVJ	Temporary Primary School Building for People affected by Cyclone "Nargis" in Bogale Township	Beginning Date : 2008.9.1 End Date : 2009.5.31	Government	¥80,754,187
	Subtotal: 8 Projects			Government Private	¥343,755,823 ¥239,581,427 ¥104,174,396
Recovery	SEEDS	School Disaster Education Project in Laputa Region of Ayeyarwady Division ★	Beginning Date : 2009.8.1	Private	¥9,319,387
	KnK	Project of Educational Support for Children affected by the Cyclone "Nargis" in Ayeyarwady Division, Myanmar	Beginning Date : 2009.6.1 End Date : 2009.7.30	Private	¥18,286,360
	Subtotal: 2 Projects			Government Private	¥27,605,747 ¥0 ¥27,605,747
Monitoring	JPF	Project for Follow-up of Cyclone Victim Relief in Myanmar	Beginning Date : 2008.7.1 End Date : 2009.6.2	Government	¥7,380,180
	JPF	Project to Report Cyclone Victim Relief in Myanmar	Beginning Date : 2008.12.1 End Date : 2009.11.30	Private	¥3,916,100
	Subtotal: 2 Projects			Government Private	¥11,296,280 ¥7,380,180 ¥3,916,100
Transportation	AAR	Cloths Distribution Project for Cyclone Victims in Ayeyarwady Division and Yangon Division in Myanmar	Beginning Date : 2009.5.1 End Date : 2009.6.11	Private	¥453,000
	KnK	Corporate Relief Supply Transport and Distribution Project in Myanmar	Beginning Date : 2009.4.1 End Date : 2009.6.30	Private	¥191,000
	JAFS	Project to Delivery Japanese Rice to Cyclone "Nargis" Victims in Myanmar	Beginning Date : 2008.7.5 End Date : 2008.8.31	Private	¥540,000
	PWJ	Food and NFI distribution for Cyclone "Nargis" Relief in Ayeyarwady and Yangon Divisions in cooperation with the prefectural government and the enterprise in Hiroshima	Beginning Date : 2008.6.15 End Date : 2008.8.31	Private	¥1,174,400
	Subtotal: 4 Projects			Government Private	¥2,358,400 ¥0 ¥2,358,400
	Grand Total: 32 Projects			Government Private	¥979,215,325 ¥817,796,242 ¥161,419,083

※ Since some projects are currently on-going, only the initial budget is noted.

※ Final accounting report will be available on the JPF website after all projects are concluded.

※ "★" marked projects are currently on-going.

BRIDGING TO THE RECOVERY
JAPAN PLATFORM

日本語 <http://www.japanplatform.org>

English <http://www.japanplatform.org/E/>



特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）

ジャパン・プラットフォーム

〒100-0004

東京都千代田区大手町 1-6-1 大手町ビル 2 階 266 区

TEL : 03-5223-8891 FAX : 03-3240-6090

Approved Specified Nonprofit Corporation

JAPAN PLATFORM

Otemachi Bldg. 2F-266, 1-6-1 Otemachi Chiyoda-ku,
Tokyo 100-0004 Japan

TEL : +81-3-5223-8891 FAX : +81-3-3240-6090

編集協力： 有限会社パワーボール

デザイン： 高嶋 純子

翻訳： 株式会社トランスボーダーズ

印刷： 昭栄印刷株式会社